

to recycleshop

遺品整理士

最終回

真心で故人と向き合う——。

超高齢化社会と核家族化が進む中、遺品整理業は今後20年で需要が急増すると言われています。それを受けて、新しく参入する異業種の事業者も増加していますが、その中には残念ながらトラブルを起こす業者も混ざっています。

遺品整理や生前整理の専門知識もなく、関連法も分からずやみくもに片付けをして不快な思いをさせたり、高額請求で残されたご遺族を追い込んだり。こうした被害も協会には報告されています。

この連載も最終回となりました。最後に今一度、遺品整理業界が健全に発展していくための提言をまとめておきます。

今後20年で遺品整理需要が急増

ご遺族負担減のため「買取り」主流に

ご依頼者が100人いれば、100通りの遺品整理・生前整理があります。ご遺族は、様々な事情で整理を依頼されています。その要望に耳を傾け、故人の尊厳を守り、整理を行う。それがプロの仕事です。

簡単にできることではありません。専門知識と、関連法に関する知識を持って対応し、ご遺族の支えとなってはじめて「ありがとう」と感謝の言葉をもらえるのです。



遺品整理を待つ部屋

全くの知識ゼロから、遺品整理士を在籍させるようになったあるリサイクルショップもありますが、きちんと学んだ効果が出て、今では月に20件の遺品整理依頼を受けるようになったそうです。私たちの協会でも、遺品整理士資格が国の認定資格となるように進めています。事業者がしっかりと学び、消費者に安心感を与える仕組みにすべく、活動を行っているところです。

また、今は遺品整理業界が変わりつつある時だと言うこともお伝えしておきます。その内の大きなトピックスのひとつが、「遺品のリサイクル」が進んでいるということです。連載でも何度かお話ししましたが、「形見として残しておこう」というモノは限られてきます。大半は処分せざるを得ず、ご遺族が処分費を負担しなければなりません。処分量が多ければ、自ずと処分費も多く負担しなければならないということになります。

ご遺族の負担を少しでも軽減するために、買取りを行って処分品を減らす。それが今後の遺品整理・生前整理の主流になると私は考えています。リユース事業から遺品整理に参入した企業は、遺品整理の市場において優位点を持つことができると言えるでしょう。

現在、中古品の販路は日本国内のみならず、海外への輸出も多くなってきています。今まで買取ることが出来なかった、衣服や靴、タンス、食器棚、ベッドなどを、海外で販売することを前提に買取る企業も急増してきました。

今回で連載は最後となりますが、ご遺族に寄り添い、遺品だけではなくご遺族の心の整理も行って差し上げるのが遺品整理です。その専門家が、遺品整理士だにご理解いただければ幸いです。協会では、この市場から悪徳業者を排除し、健全でより良いサービスを提供する企業を増やすサポートをしたいと思っています。

今まで、連載をお読みいただきました皆様、誠にありがとうございました。どちらかでお会いできれば、お声がけいただければ幸いです。心より感謝申し上げます。

一般社団法人 遺品整理士認定協会 理事長

木村 榮治 Eiji Kimura

孤立死やひきこもり、不登校問題など、様々な社会問題に対し、活動を行い、自身の父の死を機に、遺品整理業に関心を持つ。故人の生き証を大切にす業者の育成と、法整備されていない遺品整理業界の健全化に向け、「遺品整理士」資格の創設を決意し、現在の活動に至る。



木村 榮治氏